

白布城だより

2022・春

栃木県立真岡高等学校定時制課程

〒321-4331 栃木県真岡市白布ヶ丘24番地1

☎0285-82-3413 ■FAX0285-82-2913

■第3学期始業式 校長講話「夢」より

1月11日(火)の第3学期始業式にあたり、前橋 均校長は、冒頭で「あなたの夢は何ですか」と題して、生徒同士で話し合わせた。そして、フィリピンのスラム街、スモークマウンテンに住む子供たちのドキュメンタリーを記した本を紹介した。

「子供たちはビン・缶を集めて、1日50~300円を換金して家計を助ける。5歳の子供までも働き、死亡率も30%に上る。山が崩れたり、ブルドーザーに轢かれて亡くなることもある。10歳の少女はインタビューの返答で、『大人になるまで生きることです。』と、すぐさま屈託のない笑顔で答えた。生きることが当たり前でなく、いつも死と向き合っているのだ。」

また、「高齢のノーベル賞受賞者が、今後の目標を聞かれて、『さらなる発見を目指す』と嬉々として語る姿は、その少女と同じではないだろうか。目の前の現実と真剣に向き合っている人は、いつも「夢」を語れるのかもしれない。」

最後に「君たちは今すぐ夢を語れるか?」と問いかけた。「with コロナから、after コロナに向かっている君たちにとって、『今、夢を描ける力』というのは、『今、置かれた状況をがんばる、すなわち、いつでも夢を語る毎日を送るということ』である。」みなさん、いつでも夢を持とう! Dreams come true! とエールを送り、結びとした。

■予餞会、卒年次生一人一人から堂々たるメッセージ

2月2日(水)の3、4限に、生徒会主催の予餞会が開かれた。卒年次生は記念館で、在校生は各HRにてオンライン(ZOOM)で視聴した。

校長は挨拶に当たり、予餞会の「餞」の字にどんな意味があるのかと問いかけた。「はなむけ」とは、送別を表し、「旅に出る人の馬の鼻先を、旅先の方に向けてあげた故事からきている。一昨年まではドッチボール大会だったが、昨年コロナ禍により今の形態を生徒会が企画してくれた。」と労いの言葉を掛けた。

スライドショーで「4年間の思い出」を視聴後、卒業生からのメッセージでは、一人一人が壇上から在校生にメッセージを投げかけた。4年次の篠崎柊人君は、「来年度から、社会の歯車になります」と会場を沸かせた。

同じく4年次の濱裕葵君は、「中学校3年間より、高校4年間は短かった。それは仲良くしてくれる友達がたくさんいたからだ。友達との関係性を大切にしてください。」とメッセージを送り、会場は感動に包まれた。

三年次卒業生の新山叶翔君は、「学校は正直面倒くさいと思う時があるけど、サボっていると絶対後悔するから、そこんところよく考えて登校しよう!」と金言を問うた。

担任の横川航一先生は、「4年次生は1年次生の頃、頼りなかった。しかし今は全日制にはない濃厚な1年間を加えて、頼りになる自慢の卒業生になった。下級生は彼らを目指してください。」と誇らしそうだった。

植竹 暁教頭は、卒業生メッセージに謝辞を述べ、「これ聞いた下級生は、来年どんなメッセージを語れるか、またその下の下級生に、どんなメッセージを残すことができるかを考え、学校生活を送ってほしい。」と呼びかけた。

■卒業生表彰、働きながら学んだ4年間(3年間)の努力の結晶

2月28日(月)の表彰式で、校長は、代表生徒一人一人に声を掛けて賞状伝達を行った。学校長賞の臼井城依君(4年次)に対し、「働きながら、色々な困難を乗り越えて、学業・生徒会・生活体験発表等、多くの素晴らしい活躍をしてくれた。これは一人で成しえたのではなく、周りの仲間、先生方、家族に支えられて頑張ってきた成果だ。これを誇りに大きく羽ばたいて行ってほしい。」と称賛した。

1. 学業賞 (学業・人物ともに優秀な者・評定平均8.0以上) 臼井城依、篠崎柊人、篠原優夢、濱 裕葵

2. 特別活動賞

(1) ホームルーム活動賞 ア. H.R.の中心となって顕著な功績のあった者

松山遥樹

イ. H.R.の一員として他の模範となる活動をした者

篠原優夢、中家未喜

(2) 生徒会活動賞	ア. 生徒会役員として精励し特に功労顕著な者	臼井城依
	イ. 専門委員会で活動し特に功労顕著な者	酒井須来里、濱 裕葵
(3) 学校行事等		
	漢字テスト優良賞（平均点9割以上）	臼井城依、大西来希、篠崎柊人、篠原優夢、中家未喜
3. 精励賞	1年間皆勤	臼井城依、小川遼大、篠原優夢
	4年間精勤	波多野健也、松山遥樹
	1年間精勤	浅利圭祐、中家未喜
4. 他団体からの表彰	創刊50周年「白布城」（表紙デザイン）	篠原優夢
	全国定通教育振興会表彰	臼井城依、篠原優夢
	県定通教育振興会表彰	篠崎柊人、篠原 匠
	県高等学校文化連盟賞	臼井城依
5. 学校長賞		臼井城依

■卒業式、威風堂々と入退場

3月1日（火）の卒業式では、佐藤 務司窓会長、鈴木定男定時制後援会長等のご臨席を賜り、凜とした静寂の中で厳かに式が進められた。

校長は、with コロナという逆境の中、自己実現のため最後まで頑張ってきたことを讃えながら、「風は吹いてくるのを待つのではなく自分で起こすものであり、これからさらに大きく羽ばたいてほしい。」と期待を込めたメッセージを送った。

同窓会長は、「冬来たらば春遠からじ」の詩の一節を引用し、「コロナという大変な時代を過ごしてきたが、その苦難をバネにしてほしい。」と卒業生の門出を祝った。

定時制卒業生代表送辞で臼井城依君は「不本意だった中学校時代を見返してやろうと、期待に胸を弾ませて入学した。最初は距離感のあったクラスメートだったが、学校生活の中で共感し合い、行事を通して協力しながら、能動的な高校生活を送ることができた。一生の親友ができた。」と胸を張った。

式終了後、ピアノの生演奏が流れる中、多くの方々に見送られながらの退場となった。入学式当時のどこか頼りない表情は消え失せ、自信に満ち溢れた後姿が誇らしかった。

■在校生表彰

1. 学業賞

ア. 学業・人物ともに優秀な者（評定平均8.0以上）川田人希、鈴木乃愛、金壽光稜、高橋 明、瀧澤一樹、ピント・シオ、小高咲良、福田真美

イ. 特別活動と学習を両立し、優秀な成績を収めた者（県大会入賞かつ評定平均7.0以上）岡本 悠

2. 特別活動賞

(1) ホームルーム活動賞

ア. HRの中心となって顕著な功績のあった者	森島直也、細谷正輝
イ. HRの一員として他の模範となる活動をした者	河原凱大
ウ. 清掃美化に努め他の模範となる活動をした者	梶本英輝

(2) 生徒会活動賞

生徒会役員として精励し特に功労顕著な者	岩崎夕希、鈴木乃愛、八谷花梨、ピント・シオ、金壽光稜、宮城賢治、福田真美
---------------------	--------------------------------------

(3) 学校行事等

漢字テスト優秀賞（満点）	細谷正輝
優良賞（平均点9割以上）	川田人希、鈴木乃愛、水上拓海、金壽光稜、瀧澤一樹、高橋 明、ピント・シオ、福田真美

3. 精励賞

1年間皆勤	水上拓海、ピント・シオ
1年間精勤	高橋 明、瀧澤一樹、野澤尚史、渡辺一花

★白布の風 ～あとがきに代えて～

先日、教頭と“ストーブ談義”中、前任校に76歳で入学され頑張っておられた女子生徒がいたという話をした直後の思いがけない言葉に絶句した。県高等学校定通教育振興会発行の文集「蛍雪」の追悼記事で見たことがあるとのことだった。

4年生の7月に体調を崩され、入学以来続いた皆勤賞も途絶えた。教科書・ノートが入った重たい赤いカバンを背負って通学する姿、授業の予習復習を欠かさない学習姿勢や暖かな人間性は、孫のようなクラスメートから愛され敬われており、ともに卒業していくことを信じて疑わなかった矢先の8月の悲しい出来事だった。

9月に行われる定通文化発表会のクラス代表に選ばれ、「4年間を振り返って」という題の見事な発表原稿を完成させていたため、その全文が掲載されていた。

8歳で父親を亡くし母子家庭で育ったため、高校進学が叶わなかった。自分の視野を広げるためなら、人生の晩年でも遅いということはないはずと決断し、80歳にして簿記試験2級に合格した不撓不屈の精神は、テレビ取材が入っていたら全国の人に勇気と感動を与えられたのにと悔やまれる。合掌（記録・渉外部）